

# 開国をテーマとした 「海の学び」授業案

の

手引き  
小学校編  
(未定稿)

神奈川県立歴史博物館

2017年7月

海の学び  
ミュージアム  
サポート

Supported by  
日本  
財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

# 目次

はじめに・・・・・・・・・・3  
授業案について・・・・4  
凡 例・・・・・・・・・・6  
授業案・・・・・・・・・・7

(1) 異国船の来航と海防  
No. 1～No. 5

(2) ペリー来航  
No. 6～No. 8

(3) 横浜開港  
No. 9～No. 12



# はじめに

この手引きは、通常の授業に加え、とくに開国期をテーマとした授業において、「海の学び」をより活用できることを目的としています。

授業に、「海」という新たな視点を加え、児童に関心を持ってもらえる授業の一助になれば幸いです。

なお、各施設が所有する資料については、利用に当たりそれぞれ規則等がありますので、利用する際には、各施設へ問い合わせを必ず行うようにしてください。

□ この手引きは、公益財団法人日本海事科学振興財団・船の科学館による「海の学びミュージアムサポート」事業の内、パート3「海の学び 調査研究サポート」による支援を受けて、研究会を組織し、検討のうえ作成しました。

□ この手引きは、未定稿です。

□ この手引きは、神奈川県立歴史博物館主任学芸員嶋村元宏が執筆・編集しました。

□ この手引きの内容については、すべて嶋村にその責任があります。

□ 質問、意見等は嶋村へお問い合わせください。

# 授業案について

開国期を

「鎖国」を維持するために自然の要害として機能していた「海」が、外国と日本とを結ぶ路（みち）へと変化した時期

ととらえ、海防、ペリー来航、横浜開港という3つのキーワードを設定し、あわせて11の授業案を作成しました。

No1～5までは、ペリー来航以前を主たる時期とし、「海を守る」を主題としています。地域によっては、史跡などを活用することも可能なテーマです。

No6～8までは、ペリー来航を主題としています。

ここでは、ペリー来航が「海」に視点をおいたとき、いかなる意義を有していたかをテーマとしています。

No6では、ペリー艦隊の航路をから、日本と世界とが「海」によってつながっていることを理解させようしました。また、「海」を介してモノの交流が活発化する端緒がペリー来航だったということに気づかせ様とするのが、No.7です。そして、ペリー来航は、実際にペリー艦隊がその姿を現した江戸湾周辺だけで

## 授業案について

なく、全国にその状況が伝えられたことから、内陸部の人々もペリー来航という事件を通して、「海」を隔てた世界ともつながりをもったことを示そうとしたのが、No.8です。

さらに、横浜開港についても、人とモノが「海」を通して世界と日本とを往来したことに目を向けてもらおうとしました。

いずれも、博物館資料（文化財）を1点以上取り込むようにし、文化財についても授業で触れられるよ

うにしました。

当館に限らず、地元の資料所蔵施設には、地元ならではのテーマ設定を可能とする資料が多数保管されています。

この授業案集を参考に、独自の授業を展開していただきたいと思います。

# 凡例

①、②、③は、それぞれの授業案（No1～11）の番号を示しています。

No. 1  
海岸防禦—  
「鎖国」を  
維持するた  
めの幕府の  
対応

① 「学習課題の確  
認」  
「海国」であることを  
理解させる。  
・ 世界地図や日本地図を  
用いて「海国」を  
理解させる。

② 「展開1」  
外国から日本へ来た  
船は必ずしも「鎖国」  
を維持するに  
必要ない。

使用資料  
世界地図と日本地図  
などは、各学校で利用  
している者で充分です。

資料については、教科書  
や副教材等で使用されて  
いるものについては、画  
像を省略しました。  
また、掲載した画像は当  
館所蔵資料です。他館所  
蔵資料を一部紹介してい  
ますが、授業で利用する  
場合は、必ず所蔵施設へ  
問い合わせてください。

説明は、必要最低限  
抑えておくべき点だ  
けにとどめました。

# 授業案

# (1) 異国船の来航と海防

# No. 1 海岸防衛— 「鎖国」を 維持するた めの幕府の 対応

## ① 「学習課題の確 認」

「海国」であることを  
理解させる。

- 世界地図や日本地図を利陸なたを  
用し、国境を海で接してまこ  
「海国」を「海国」させます。

## ② 「展開1」

外国から日本へ来る時  
には、必ず船を利用した  
なければならぬことを理解  
させる。

- 「鎖国」を維持するた  
めには、外国船を追い  
払う必要がある。

## 使用資料

世界地図と日本地図  
などは、各学校で利用  
している者で充分です。



No. 2

No. 3

No. 4

No. 5

① 「導入」では、「鎖国」をはじめた理由を復習するとともに、その「鎖国」を維持するための対応策について児童に考えさせることで、学習課題の確認をおこないきましょう。

「鎖国を続けるために海を守る必要があったことに気づかせる」ことについては、No. 1を参照してください。

## No. 2 杉田玄白

この授業案では、江戸時代に興った蘭学の祖として学習する「杉田玄白」を題材とすることで、「鎖国」維持のために海岸防禦を強化する必要があったことを学びます。

### □ 杉田玄白

江戸時代の蘭学医。

1733年10月20日—1817年6月1日

1752年若狭国小浜藩（現在の福井県小浜市）医となるが、1745年には日本橋に開業。

1754年、山脇東洋が日本ではじめて人体解剖（腑分け）をおこなったことに刺激を受け、前野良沢、中川淳庵とともに『ターヘル・アナトミア』和訳し、1774年『解体新書』として刊行した。

なお、玄白はオランダは読めなかった。

## No. 2

② この肖像画の部分が切り抜かれ教科書にも掲載されていますが、掛け軸全体を見せる必要があります。

玄白の右膝前には洋書（蘭書）が、左手付近には和書が見えます。西洋の知識を日本にもたらした玄白の活動を象徴しています。

杉田玄白は、オランダからもたらされた外国の脅威に対し反応した人物のひとりです。

海を守ることについても意見を述べています。

資料画像

重要文化財

石川大浪筆

《杉田玄白肖像》

文化9（1812）年

早稲田大学図書館所蔵

[http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko08/bunko08\\_a0252/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko08/bunko08_a0252/index.html)

なお、文化財を活用するという観点からすれば、必要のない時には巻くことでコンパクトに収納できる作りである掛け軸であることにも注目すべきです。

## No. 3 海防巡検

② 幕府や各大名は、異国船の来航に備え海岸線の防備状況を視察し、その強化を図りました。

その視察を担当した役人が幕府や藩主への報告書に添えて提出された報告図を利用し、「海を守る」ために、各地域でどのようなことがおこなわれていたのかを具体的に知ることができるようになります。

また、図ではなく、報告書を現代語訳することで、役人が実際にどのような点に注目したのかもわかります。

海防巡検は、江戸湾周辺だけではなく、東北でも、日本海側でもおこなわれていますから、報告図、報告書に関わらず、地元に残る資料を活用し、地域学習の一環としても活用可能です。

## No. 3

② 作者不詳《近海見分之図》（きんかいみわけのず）は、老中阿部正弘の命を受けた海防掛石川政平、筒井政憲らが1850年おこなった江戸湾周辺の巡検の報告図です。全4冊に約100図が収められています。

描かれている人や大砲に注目することで、異国船が来航した時の準備をしていることに気づくでしょう。

☆作者不詳《近海見分之図》1850年、神奈川県立歴史博物館所蔵



# No. 3

るなど  
す台まこ  
目(ざた  
注場まい  
にちさてす。  
紋持にし  
家、と当  
、で、ご担  
た)がわか  
まこ場藩も

やも所か絵を意つ。合こ  
島に場と世目作にす。み検る  
の絵たこ浮に制とま組巡せ  
江世れるとい、これをら  
は浮かい料違でるわ像でとす。  
に、描て資のと取思画とたで  
料どばれの方こみとのこを能  
資なしまこきる読る枚るト可  
の磯は含、描けをが数せ一も  
こ大しもの向図な複わると

☆作者不詳《近海見分  
之図》1850年、神奈川  
県立歴史博物館所蔵



※1795年に老中・松平定信自らがおこなった巡検の様子を描いたものが重要な文化財。谷文晁筆《公余探勝図巻》2巻、紙本着色、1793年、東京国立博物館所蔵です。

[http://www.emuseum.jp/detail/100324/000/000?mode=detail&d\\_lang=ja&s\\_lang=ja&class=&title=&c\\_e=](http://www.emuseum.jp/detail/100324/000/000?mode=detail&d_lang=ja&s_lang=ja&class=&title=&c_e=)

## No. 4 台場

② 現在、「お台場」というと観光名所である品川台場を思い浮かべがちですが、本来「台場」とは異国船を打ち払うために江戸幕府が設置した砲台でした。

ここでは、いかなる背景により三浦半島や房総半島に台場が多く築かれたのか考えることで、本来台場は「海を守る」ための要塞であったということを理解させます。

No. 3【海防巡検】同様、台場が築かれたのは、江戸湾周辺ではありません。

北海道や東北方面については南部藩が、現在の石川県周辺については加賀藩が担当していましたが、前者については盛岡歴史館に、後者は金沢市立図書館近世史料館に関係資料が所蔵されていますので、地元の地域学習とする場合には、それらの機関が所蔵する資料が利用可能です。

## No. 4

天保期に水野忠邦とともに老中であった松代藩主真田幸貫（さなだゆきつら）は、同じく老中であった古河藩主土井利位（どいとしつら）とともに、海岸防禦掛にも任命されています。

そのような立場から、当時の海岸防禦態勢を把握しておく必要から台場図を保持していたと考えられます。

海側からみた台場の状況が描かれています。

☆作者不詳《相房総台場略図》1巻、紙本着色、江戸時代末期、真田宝物館所蔵

※使用にあたっては、所蔵機関へお問い合わせください。

## No. 5 海なし藩が 海を守る

② 海岸防禦は、自身の領地だけを担当するわけではありませんでした。1842年に天保の薪水給与令が出された後三浦半島は川越藩（現在の埼玉県川越市）が、房総半島は忍藩（埼玉県行田市）が担当しました。

海防というと、海に面していた藩だけが関係したように誤解されがちですが、実際は領地に海を持たない藩が担当していたことを理解する必要があります。

したがって、地元の藩が別の地域の海岸を守るために派遣されていたと言うこともしばしばあります。

地元に遺る資料に、他地域で海防をしていた状況を示す絵図や文書を活用することも可能です。

# No. 5

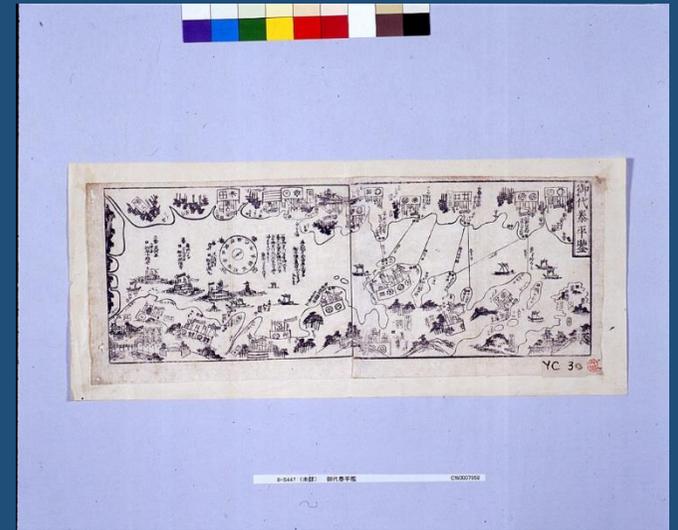
湾大もま  
戸たとい  
江れとて  
、さ紋れ  
は、員家  
に動が示  
部に前表  
上備名覧  
料防の一  
資の名に  
す。

元確認  
地、か  
に、い  
中なよ  
のいし  
覧がま  
一、大  
その大  
して

ていつ  
しが見  
ながせ  
面名ま  
に大れ  
海のし  
は、元も  
に地か  
中な  
か

らたい。をた  
かつとん海い  
いまたせもて  
な、に、ま、人、し  
い防、かり、む、活  
て海、な、あ、住、生  
して、が、は、に、て  
面、っ、係、と、部、し、す。  
海、と、く、う、内、意、の

☆《御代泰平鑑》1枚、未  
紙本、墨摺、川平江立、時歴、史博  
物館所蔵



## (2) ペリリー来航

No. 6

No. 7

No. 8

① 導入部では、「鎖国」をはじめた背景を復習します。

- キリスト教禁止。
- オランダと中国以外交易をおこなわない。（ポルトガル、スペイン船の来航禁止）
- 日本人の海外渡航禁止。

18世紀になると、通商を求め異国船が頻繁に日本近海へ出現するようになります。

特に、ロシアは他の西洋諸国に先んじて蝦夷地（北海道）へ使節を派遣し通商を要求します。

ペリー来航よりも60年も前のことです。

「海」が世界と日本とをつないでいることがこのことから理解できます。

No. 6  
No. 8

② この資料では、船の構造に注目させます。

蒸気力で航行するといふこれまでになかった船です。いまだに日本では、風を受けて航行する帆掛け船しかなく、風の影響を受けずに航行できる蒸気船そのものが西洋文明の象徴であり、ペリーはそのことも意識して蒸気軍艦で来航しました。

しかしながら、まだ帆船の方が航行スピードはうえでした。

《本国蒸気船之図》1枚、紙本墨摺、江戸時代末期、神奈川県立歴史博物館所蔵



# No. 6 ペリー来航時の世界

③ 「ペリー航路図」から米国と日本とが海を通じてつながっていることが理解できます。大統領から日本との通商条約締結を命じられたペリーは、東インド艦隊と合流するため蒸気軍艦ミシシッピ号で米国東海岸ノーフォークを出航します。太平洋を横断して日本へ直接来航したわけではないことに注意しましょう。図中「→」は停泊地を示しています。

ペリー航路図



《ペリー提督日本遠征記》の内、「モーリシャスのヒンドゥー教徒」 1856年



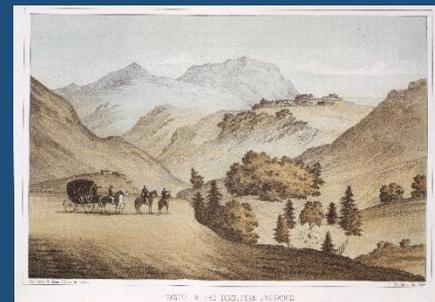
## No. 6 ペリー来航時 の世界

③ ペリー艦隊は、日本を開国することが任務でしたが、地球探検隊としての側面ももっていました。日本へ向かう途中に停泊した地点の様子を克明に記録しています。

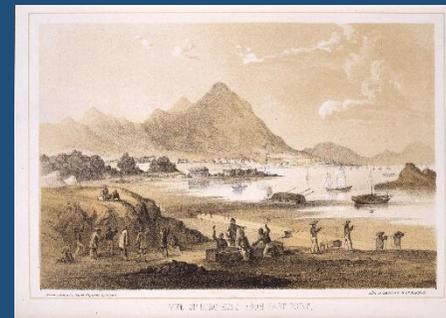
《ペリー提督日本遠征記》の挿図は、日本開国当時の世界の一端を示しているのです。

「海」により世界の諸地域と日本とは結びついていたのです。

《ペリー提督日本遠征記》の内、「セントヘレナ ロングウッド」



《ペリー提督日本遠征記》の内、「香港 イーストポイント」



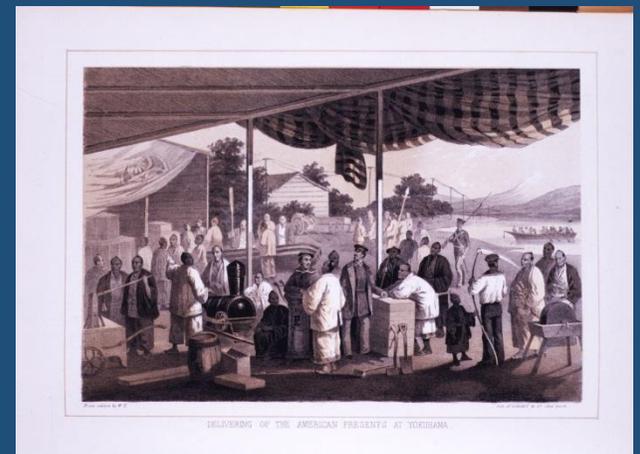
## No. 7 ペリーからの 贈り物

③ 多くの情報をもつ  
画像です。

プロジェクターで投影  
し、拡大して細部まで  
見せるようにしましょ  
う。

1854年条約締結交渉ま  
えに、ペリーは西洋の  
技術を示すために献上  
品を横浜に陸揚げしま  
す。日本にないものを  
興味深そうに見る日本  
人の表情に注目するの  
も良いでしょう。

《ペリー提督日本遠征  
記》の内「アメリカから  
の献上品が横浜に陸揚げ  
された図」





# (3) 横浜開港

No. 9  
No. 10  
No. 11

① 安政五カ国条約の締結により、神奈川（横浜）をはじめとする五つの港が開かれ、自由貿易が始まったこと、ならびに外国人が居住するようになったことを確認します。

《横浜御開港全図》橋本玉蘭齋、1860年頃



# No.9 開港による 西洋化

② 浮世絵に描かれていることから、日本でありながら西洋的な建物や蒸気機関車などの西洋製のものが「海」を超えて日本にもたらされたことを築かせるようにしましょう。

「海」が西洋と日本をつないだことにより、日本の社会が大きな変化を遂げたことに目を向けさせます。

## ☆横浜浮世絵





## No. 11 海を渡った 人々

② 西洋の思想や制度をいち早く日本へ伝えた人物である福沢諭吉は、1860年の遣米使節団の一員として米国へ渡ります。「海」をこえてた人物のひとりであり、「海」を通じて西洋の知識を持ち帰った人物であることを確認しましょう。

☆福沢諭吉の肖像写真



海の学び  
ミュージアム  
サポート

Supported by  
 日本  
財団  
THE NIPPON  
FOUNDATION

神奈川県立歴史博物館

2017